

平成 29 年度 特別養護老人ホーム 大仙園 事業報告

事業計画実施状況

<介護部門>

従来型介護部門では、自立支援を重視した取り組みと事故防止、認知症ケアの向上を目的に支援しました。

自立支援を目指した一日の水分量ですが、1 日 1000 ml 以上飲まれている利用者は多いのですが、それ以下の利用者も約 4 割程度おられます。(グラフ 1, 2) 高齢者は水分量の低下により様々な病気を引き起こすことになり、今回入院治療が必要となる重症の尿路感染症の利用者は 3 名となりこの水分量の低下が要因の一つと考えられます。今後は個々の飲水量のデータを確認しながら、確実に水分量の確保に努めていきます。

次にレクリエーションの充実についてですが、集団でのレクリエーションを毎日取り入れるのではなく、音楽鑑賞や、パズル、塗り絵などそれぞれが興味あることに取り組んで頂くようにしました。ショートスティのご利用者様も多く個々に楽しんでおられました。

そして、事故防止の取り組みにおいて、ヒヤリハット件数は 126 件報告され(グラフ 3) 事故を未然に防ぐ予防対策を行っており、骨折 0 を目指していましたが 3 名のご利用者が骨折されました。(グラフ 3) いずれも骨折の原因は転倒によるものであり、事故を予防することの難しさを感じており、次年度は事故が起こる前に駆け付けられるような器機の導入も試案しております。

又、入院治療が必要になるような重度の褥瘡(床ずれ)が発生したことも反省すべきです。今後は、褥瘡の発生リスクを数値化し、個々の対応策を早期に行えるようケアの充実を行なっていきます。(グラフ 11,12)

認知症ケアの向上については、認知症中重度の利用者が約 9 割以上を占めている中(表 8) 認知症の実践研修を終えた職員が中心になり研修会にてケアの実際を収得できるように学びを深めました。

ユニット型介護部門ですが、ユニットケアの特徴である「入居者様に、その人らしい生活を送ってもらう暮らしの継続」に取り組みました。

個人を尊重し、個人の希望に添えるよう個別対応を行っていますが、まだまだ希望に添えられないことが多々ありますので、しっかりと聞き取りを行う様にし、毎日充実した日々を過してもらえるように支援していきます。事故防止に関してですが、ベッドから転落・転倒されたと思われる骨折をされた入居者が 2 名となっています。(グラフ 8) また、ヒヤリハットの件数も 92 件の報告があります。(グラフ 7) 入居者様にとって、どのような住環境(畳、マットレス等)がいいのかをカンファレンスで検討し、再発防止に取り組んでいます。起こってしまった時には、しっかりと原因・要因を追求し対策を練り、再評価を行うようにし再発予防に努めていきます。

次に、認知症ケアに関しての取り組みですが、認知症の利用者の関わり困難な事例を通してケアの充実を目指し、その学びを県大会にて発表しました。ユニット型職員には認知症実践

研修を受講した職員が 3 名おります。重度化している認知症状に対して今後もケアの向上に努め介護の質的レベルを向上したいと考えます。

最後に、職員間の情報の共有についてですが、些細なことでも報告、連絡、相談を行うように周知し、問題があれば、早期に解決できるように努めていますが、情報共有ができていなかった為に、初動が遅れることがありましたので主任、副主任が中心になり、風通しのよい職場環境を作れるように普段から、コミュニケーションを図り入居者の支援を行っていきます。

<看護部門>

まず、入院者数が 31 名と前年度に比べ 29 年度は 11 名も増しています。(表 1)

治療の為定期的な入院が必要な利用者や、胃ポリープ切除、尿路感染症等様々な疾患による入院で入院者数が増加していますが、中でも肺炎による院者は昨年までは 5 名前後でしたが、29 年度は 11 名となっています。(グラフ 13)

高齢者の死因第 3 位は肺炎となっており、この現状を重要視すべきだと考えますが、肺炎予防に効果的な肺炎球菌ワクチンの接種を見ると 29 年度もわずか 3 名の利用者の接種となっており肺炎予防に関しての意識の低さも明らかです。(表 2)

そこで、29 年度後期にかけては、私達ができる肺炎予防に効果的な口腔ケアの実践に取り組みました。(表 3)

口腔ケアの歯科医師にも協力して頂き口腔内を清潔に保つことで肺炎予防をしていきます。そして、看取り介護について、29 年度は 19 名の看取り介護の同意を得られた利用者が亡くなっています。(グラフ 14)「死」を迎えることはご家族にとってはとても辛い現実であります。ですが、「死」を迎えても残されたご家族が良かったと思っていただけるよう、介護職員と協力しながら支援していきます。

最後に、介護職員の痰吸引による医療的ケアマネジメントですが、吸引手技も安全にできている為事故は起こっていません。今後も解剖生理学の知識も確認しながら介護職のサポートを行っていきます。

<機能訓練部門>

機能訓練部門ですが、訓練士が一人体制の為介護職と協力しながらラジオ体操を毎日してもらったりして日々生活リハビリの充実を図っています。歩行起立訓練や、足のローラー、ウォーターマッサージ等を行うことで、訓練を楽しみにされている利用者が多く日常生活の満足度が高まっているようです。

しかし、この関わりを記録に残すことが出来ず、個別機能訓練に関する書類整理も行えていなかった実状があり深く反省しました。よって 30 年度は書類の整理を行い、ご家族の同意を得ながら個々の機能訓練の実践と記録の充実を図るようにします。

<栄養部門>

昨年に引き続き郷土料理を取り入れ、季節によって旬の食材を使用しています。食材のグレードアップは価格の問題があり今後の検討課題となります。調理は、作る人によって切り方や大きさ、硬さ、味付けが異なり均一化ができていないことが残念です。

事故報告に関してですが、異物混入の事故は今年度 6 回となっています。以前より異物混入は幾度かあり利用者様、職員にも迷惑をかけた為ユニフォームを変更し、髪の毛が混入する事は少なくはなっていますが、以前混入報告が上がっています。今後も引き続きローラーがけの徹底、目視での確認を行っていくよう注意喚起してまいります。

厨房内の衛生状態はあまり改善が見られず、食器やトレイに乾燥した残菜が残っていたり、排水溝の掃除ができていない為、夏期にコバエが発生している状態です。衛生管理に対しての意識が低く、トイレに帽子・エプロンをしたまま入室したり、厨房に入る際に手洗いを行っていない事がある為、美味しく安全に食事の提供ができるよう注意していきます。

利用者様の健康維持に関してですが、食事量、体重、血液データ等を指標とし、体重減少の著明、食事量の低下している利用者様には主食の量の変更や、トウフィール(栄養補助食品)を提供し様子を見ています。

<生活相談サービス部門>

日々の相談業務の中で利用者の立場に立って考え取り組み、利用者ならびにご家族との面談の中で信頼関係を構築出来るように努力しました。

入退所に係る入所会議においては、毎月会議を進めることが出来たと思います。しかし、入所申し込みの漏れなどがあり、待機者リストにおける情報管理が不十分でした。したがって再度リスト内の申込者に対する電話確認および面談を行うなど、入所申込者の再評価およびリストの待機順番などの再検討を行いました。

来年度に向けて申し込み者に対して定期的にアプローチを行い、情報の更新に努めます。地域から期待される施設を目指し活動していましたが、入所者の紹介など以前から関わりのある事業所に頼る部分が多く、連携の幅が広がっていませんでした。現在は訪問活動ならびに入所申し込みなどを通じて、新規の事業所の開拓や連携に努めています。今後更なる取り組みを通じて、地域に必要とされる施設を目指します。

<ケアマネジメント部門>

利用者主体のケアプランの作成を目指し、日々の介護部門とのカンファレンスを通じて課題の分析評価に努めました。利用者が抱える問題点を多職種ならびに他部門と共同で整理して、生活を維持向上させていく上で必要な課題の分析を行いました。

今後は利用者ならびにご家族に対して定期的な来園を案内するなど面談出来る機会を増や

すことに努め、積極的なコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築に努めます。
またケアに係る利用者ならびにご家族の意向を十分理解した上でケアプランを作成し、ニーズに基づいた支援に繋げていきます。

<事務部門>

社会施設法人及び介護保険施設に係る実施指導監査などを経て、改善を要する指摘事項などがあり、書類面における管理と整理が不十分であることを痛感しています。

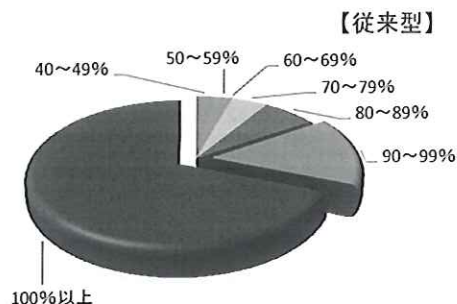
今後は特に介護保険施設における加算項目などに関して、要件を満たす必要事項の検討を積極的に行わなければなりません。また監査に係る要件については、この度の経験を生かし着実に取り組んでいきます。

受付業務に関して施設の入り口にある部署として、来園者など明るく丁寧な接遇に取り組みました。来園者ならびに職員に対して、明るい挨拶など継続して取り組みます。

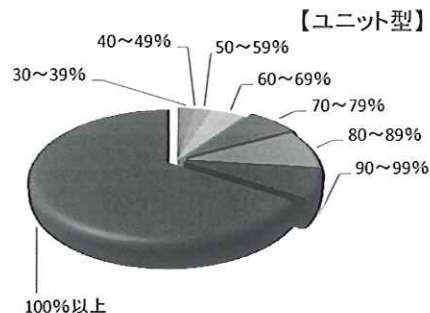
人材確保について、看護職員 4 名と介護職員 5 名採用に至りました。職員研修会において、毎月の自己啓発テーマを挙げ、目標、自己評価をしましたが効果には低迷しています。次年度も継続して介護職員の採用に努め、新たな人材育成に効果的な研修項目があれば提案していきたいと考えます。

◇水分摂取量

<グラフ 1>



<グラフ 2>

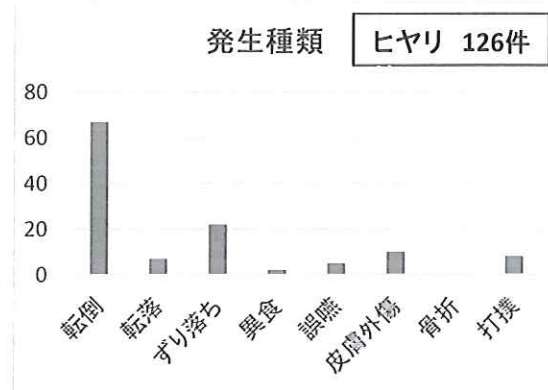


注) 1日の水分量が1000mlが100%を示す

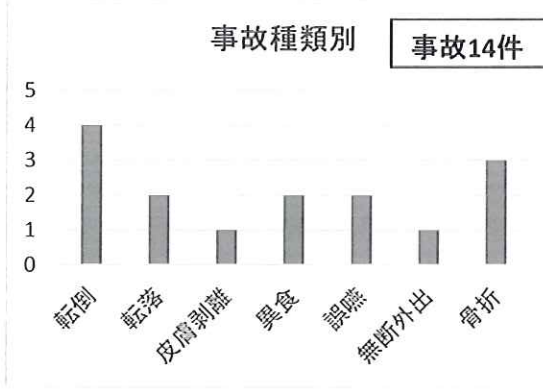
◇事故・ヒヤリハット報告状況

【従来型】

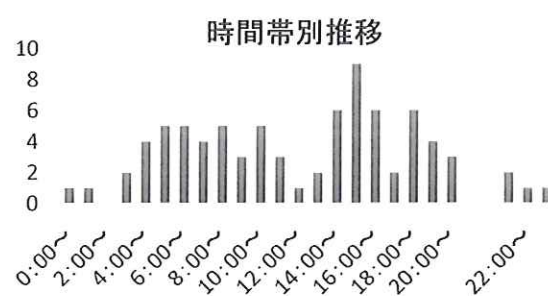
<グラフ 3>



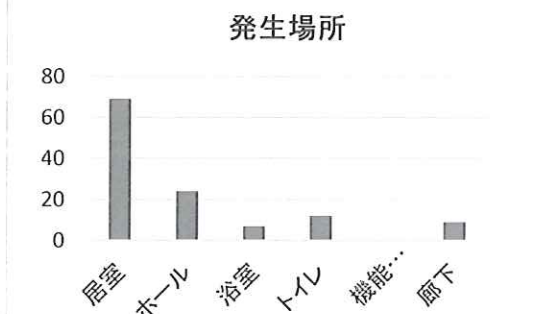
<グラフ 4>



<グラフ 5>

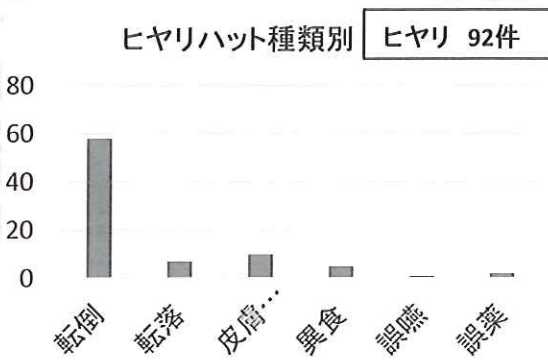


<グラフ 6>

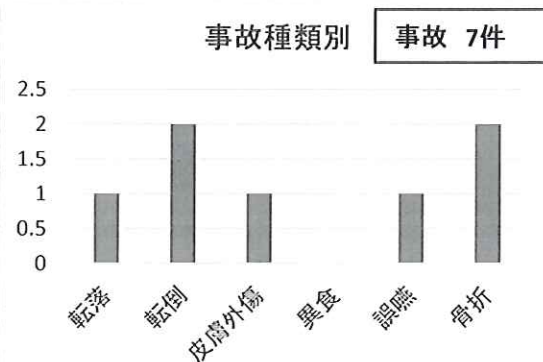


【ユニット型】

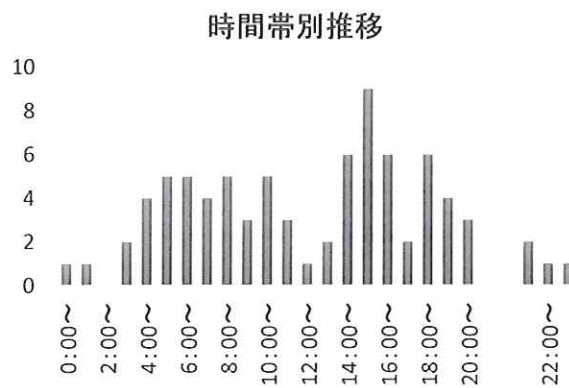
<グラフ 7>



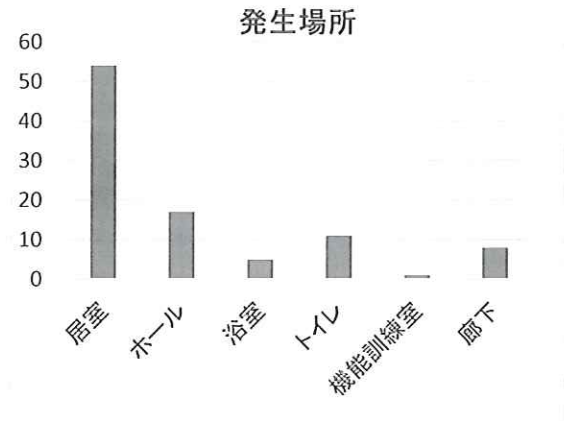
<グラフ 8>



<グラフ 9>

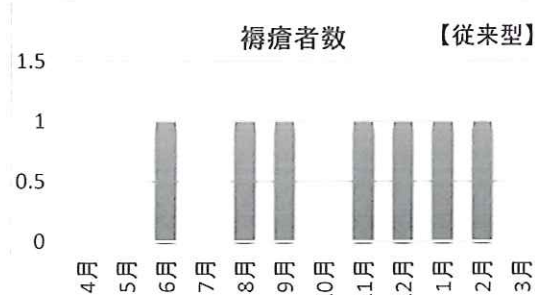


<グラフ 10>

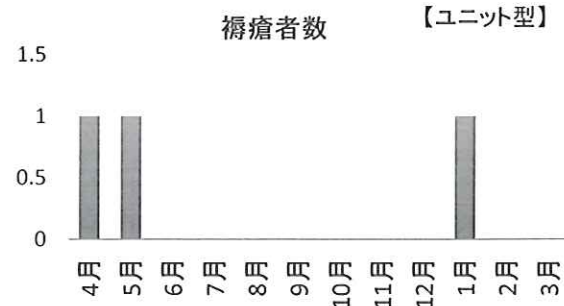


◇褥瘡(床ずれ)者数

<グラフ 11>

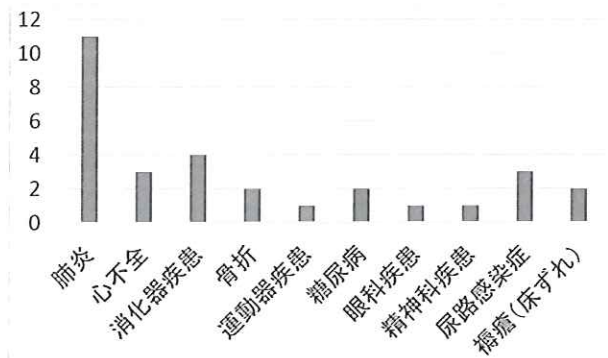


<グラフ 12>



◇入院者の疾患別状況

<グラフ 13>



<表1>

入院者数	
平成27年度	33名
平成28年度	20名
平成29年度	31名

◇肺炎球菌ワクチン接種者数

<表2>

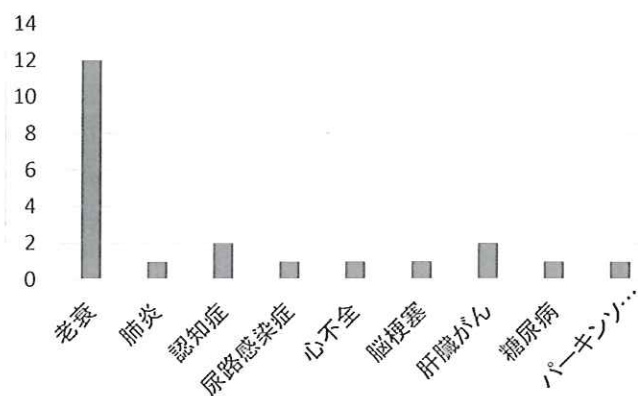
年度	接種者数
平成27年度	2人
平成28年度	2人
平成29年度	3人

◇口腔ケア受診者数

<表3>

年度	接種者数
平成27年度	7人
平成28年度	18人
平成29年度	30人

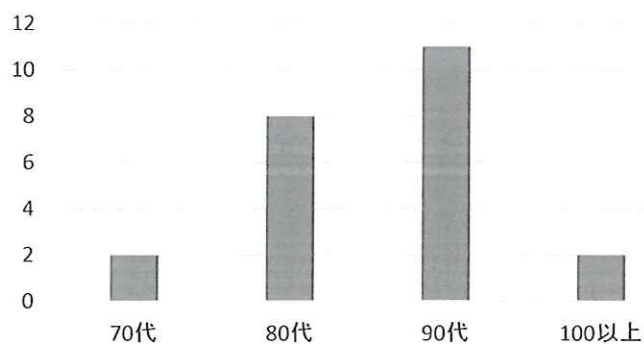
◇平成29年度死亡者死因別
＜グラフ 14＞



＜表4＞

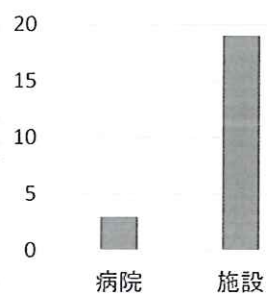
死亡者数	
平成27年度	19名
平成28年度	21名
平成29年度	22名

◇平成29年度死亡者年齢
＜グラフ 15＞



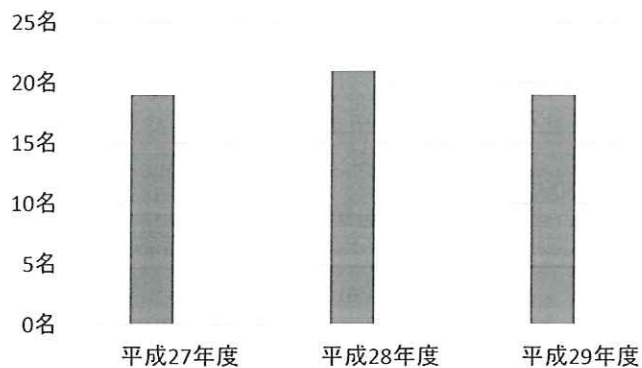
◇死亡場所

死亡場所



◇平成29年度看取り死亡者数

＜グラフ 16＞



＜表5＞

看取り者数	
平成27年度	19名
平成28年度	21名
平成29年度	19名

◇平成 29 年度特養利用者総数 退所者数を含め 118 名うち入退所者数 29 名

【表 6】

年度	入所者数	退所者数
平成 27 年度	29	29
平成 28 年度	28	28
平成 29 年度	29	29

◇平成 29 年度入所者状況と稼働率

【表 7】

年度	平均入所者数（人）	稼働率（％）
平成 27 年度	88.4	95.5
平成 28 年度	89.1	95.5
平成 29 年度	89.6	99.8

平成 29 年度入所延べ日数 $365 \text{ 日} \times 90 \text{ 床} = 32,850 \text{ 日}$

利用者延べ日数 32,798 日 ÷ 入所延べ日数 32,850 日 = 99.8%

注) 入院、外出などは含まず、実利用日数にて計算

◇平均在園日数

【表 8】

年度	最長期間	平均期間
平成 27 年度	16 年 3 ヶ月	3 年 6 ヶ月
平成 28 年度	17 年 3 ヶ月	3 年 10 ヶ月
平成 29 年度	18 年 3 ヶ月	3 年 4 ヶ月

◇平成 29 年度入所者要介護度状況

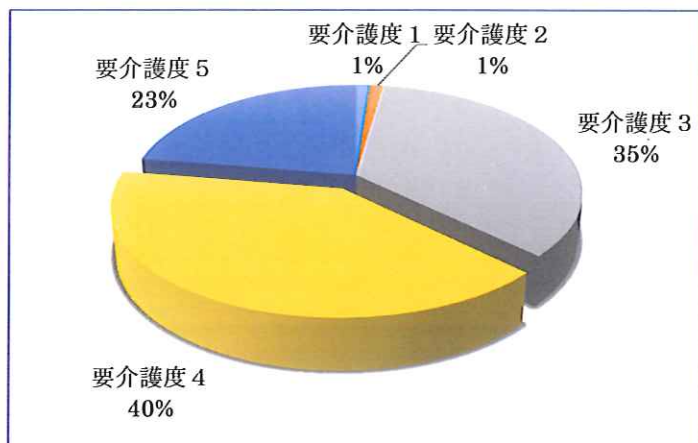
【表 9】

(人)

	従来型	ユニット型	退所者数	合計
要介護度 1	0	1	0	1
要介護度 2	0	1	0	1
要介護度 3	18	13	6	36
要介護度 4	18	18	11	48
要介護度 5	11	9	12	32
合計	47	42	29	118

平成 30 年 3 月 31 現在

<グラフ 17>



◇平成 29 年度内の利用者に係る保険者内訳

【表 10】

市町村名	従来型	ユニット型	退所者	合計
東広島	17	23	9	49
竹原市	13	8	6	27
三原市	9	9	9	27
尾道市	2	1	2	5
世羅町	1	0	0	1
大崎上島	3	1	0	4
呉市	1	0	1	2
広島市	0	0	1	1
井原市	1	0	0	1
合計	47	42	29	118

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

◇平成 29 年度年齢構成

【表 11】

(人)

	従来型	ユニット型	退所者	合計
60～69 歳	0	0	1	0
70～79 歳	7	5	2	14
80～89 歳	21	16	14	51
90～99 歳	18	19	10	47
100 歳以上	1	2	2	5
合計 (人)	47	42	29	118

◇年齢構成

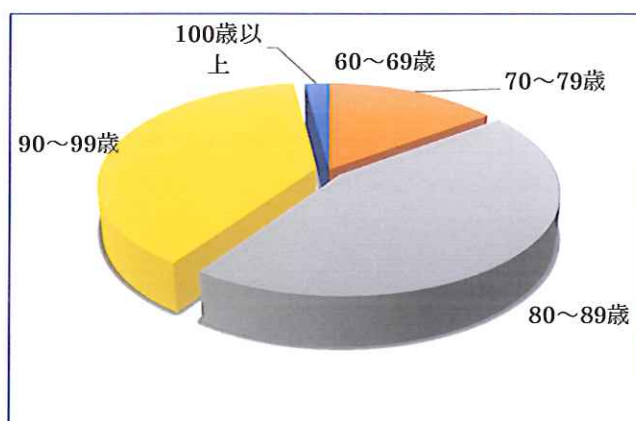
【表 12】

(人)

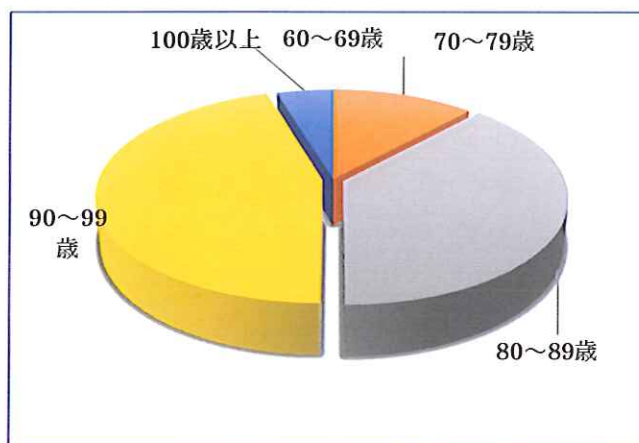
	従来型	1F 比率	ユニット型	2F 比率	退所者	特養比率
60～69 歳	0	0, 0%	0	0, 0%	1	
70～79 歳	7	14, 6%	5	11, 9%	2	
80～89 歳	21	43, 8%	16	38, 1%	14	
90～99 歳	18	37, 5%	19	45, 2%	10	
100 歳以上	1	2, 1%	2	4, 8%	2	
合計 (人)	47		42		29	

平成 30 年 3 月 31 現在

【従来型】 <グラフ 18>



【ユニット型】 <グラフ 19>

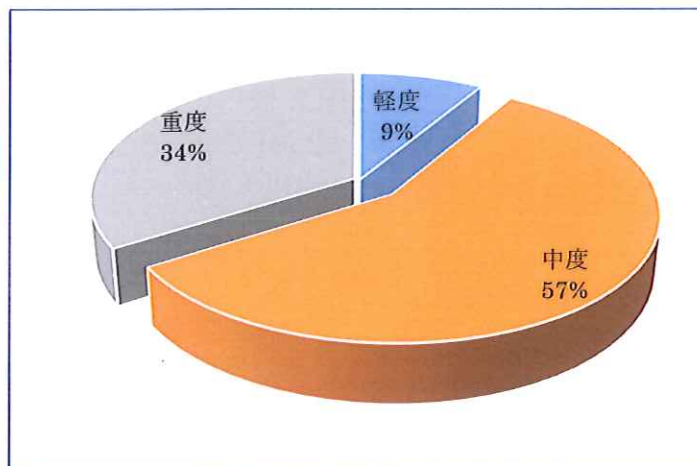


◇認知症自立度 ※毎月月末に入所されている利用者を基準とする

【表 13】

	自立度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
従 来 型	I・II	3	3	4	5	6	6	6	6	6	6	7	8	66
	III	27	27	27	26	25	26	26	26	28	29	27	27	321
	IV・V	16	17	17	17	17	16	16	16	14	13	13	12	184
	III以上計%	93.5	93.6	91.7	89.6	87.5	87.5	87.5	87.5	87.5	87.5	85.1	83.0	88.4
ユ ニ ツ ト	I・II	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	27
	III	25	25	26	26	25	25	24	24	24	24	24	24	296
	IV・V	15	15	15	14	15	15	15	15	15	15	15	15	179
	III以上計%	97.6	97.6	97.6	95.2	95.2	95.2	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9	94.6

<グラフ 20>



【短期入所利用者状況】

◇平成 29 年度利用状況と稼働率

【表 14】

	利用者数	利用日数	稼働状況 (%)
平成 27 年度	27 人	701 日	19.2
平成 28 年度	36 人	1,745 日	47.8
平成 29 年度	38 人	1,519 日	41.6

平成 29 年度入所延べ日数 365 日×10 床＝3,650 日

利用者延べ日数 1,519 日÷入所延べ日数 3,650 日＝41,6%

◇短期入所生活介護（ショートステイ）利用者地区別者状況

【表 15】

利用地区	利用者数（人）
河内	7 名
本郷	1 名
高屋	12 名
志和	1 名
竹原	7 名
三原	5 名
大和	5 名
合計	38 名

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31

職員研修の目的

1. 施設の基本理念を達成する為に、職員一人一人の質的アップを目指す。
2. 研修を通して、常に原点に立ち帰ることを習慣づける。

月	研修項目	研修内容	担当者
4月	・介護の本質とケア実践が見える記録を考える ・個人目標の設定(キャリアデザインシート)	・介護を何故するのか？ケアのその記録が職員間で共有するたためにはどうすればよいのか？水分は何故必要なのか？等について講義される。 ・自立支援に向けた援助の提供をしていくため部門計画に沿った個人目標を設定し、ご利用者様の生活の質の向上に繋げるため各自に記載してもらう。	本田 主任
5月	・利用者様の思いを映すケアプランに添う支援の評価の仕方 ・個別ケアについて考える	・ご利用者様の生活を支えるためのケアマネジメントの重要性を確認し、ニーズ、目標、支援経過といったプロセスを理解した。 ・入所後も個人の生活を継続させる取り組み(ユニットケアのありかた)について講義し、現在の個別ケアを見直した。	吉村 吉村
6月	・食中毒について(感染①) ・認知症ケアについて①	・福祉に携わる人なら誰もが修得しておかなければいけない接遇について再確認する。 ・認知症の基本知識について学び、症状についての対応を学んだ。	杉本副主任 古井
7月	・認知症ケアについて② ・事故防止に対する意識を高める為の取り組み	・認知症の方への対応について学び、利用者様の立場に立ったケアについて考える。 ・高齢者施設でのヒヤリ・ハット、事故の報告などを知り、当施設において事故防止を最大限に予防するための対策など、事例をもとに検証し、予防策がとれるよう実践した。	近藤 西谷
8月	・生活リハビリの重要性の知識 ・コンプライアンスについて ・東広島ブロック研修	・心身機能は年を重ねる事により明らかに低下していく。高齢者はこの免れない実状を感じながら、「若い」という経過を受け止めている。そこで、日頃から機能(残存能力)維持を目的に訓練を加えた支援をすることの必要性について学習した。 ・社会福祉法人がなすべき法令遵守について講義され理解した。 ・高齢者の最期を考える」をテーマとして発表	飯田 八岩主任 杉本・田澤
9月	・排泄ケアをプライバシー保護の観点より考えてみる ・尊厳とは？を理解し、接遇の基本的姿勢を学ぶ	・プライバシーの保護を重要視した排泄援助の方法を習得する為に抗議を行った。 人の尊厳について講義をし、福祉のプロとしての取るべき姿勢について学んだ。	吉岡副主任 橋本(光)
10月	・心肺蘇生講習会	・急変時の対応について実践を交えて消防隊員より講習を受ける。	消防署員
11月	・感染症対策(標準予防策と感染経路別予防策の手順)② ・家族室の手順 ・褥創ゼロを目指した取り組み ・誤嚥予防の食事助と口腔ケアの重要性	・感染予防策の知識を収得し、警鐘、喚起することで利用者、職員の感染予防に努めるよう学び、今月より体温測定・うがい・手洗いの励行を呼び掛けた。 ・臨終時に家族室にてご遺体を安置するが、その準備品や注意点等について学んだ。 ・寝たきりのご利用者様、脆弱な皮膚の利用者様にとっては褥創発生のリスクが高いく。褥創をいかに予防できるか、創部の進行を予防について学んだ。 ・誤嚥による肺炎は高く、肺炎を予防できる口腔ケアの重要性について学んだ。	湊 伊藤 野村 森下
12月	・カンファレンスの開き方 (アセスメントの重要性和カンファレンスの取り組み) ・事故対策②	・紙面上だけのケアプランではなく、利用者様をしっかりと見つめ、適切なニーズを捉えたプランを作成することの講義をした。 そのためには、職員が的確な視点により、問題思考型ケアの取り組みを学んだ。	田澤
1月	・認知症ケアについて③ ・技能実習指導者研修の報告	・ヒヤリハット・事故件数の報告と検討を行った。 ・認知症の方への関わり方について実践的な学習を行うとともに、介護者のストレスについてのコーピング方法について学ぶ。	店田・吉岡 池崎
2月	・介護職が目指す看取り介護とは	・実習の目的や外国人とのコミュニケーションについて学んだ。 ・看取り介護が増加する中で、当施設が目指す看取り介護について学んだ。	西谷副主任 橋本和則
3月	・身体拘束ゼロへ・虐待防止の取り組み ・認知症ケアについて③ ・医療的ケアのリスクマネジメント	・身体拘束廃止の重要性について学習すると共に、尊厳、倫理について学んだ。 ・認知症の研修を終え、認知症についての基本知識を講義する。 ・介護職による痰吸引や経管栄養の介助が安全に提供されるためには、リスクマネジメントの向上を図ることが重要である為実技チェックを行う。	店田 黒田・松田 田中

○本年度は、研修計画の変更はあったが、おおむね予定通り行えた。

○消防署との協力により救急蘇生も行えた為次年度も実践したい。

○職員全員が参加できるよう研修会を月に3回行うようにした。

平成29年度 大仙園年間行事報告書

4月	行 事	・お花見の会(4月8日) ・誕生日会	10月	行 事	・秋を感じる会(10月17日) ・誕生日会
	運 営	・園だより発行 ・職員研修会(4月25日) ・各種委員会 ・入所検討会議(4月25日)		運 営	・清掃作業(不ニビルサービス) ・救急蘇生講習会(10月25日) ・ストレスチェック実施 ・園だより発行 ・入所検討会議(10月25日) ・職員研修会(10月25日J)
5月	行 事	・昼食会(寿司バイキング)(5月24日) ・誕生日会 ・お楽しみ会(ボーリングゲーム)	11月	行 事	・避難訓練(夜間想定)・・・土砂崩れ災害の訓練も組み込んだ避難訓練 ・誕生日会
	運 営	・避難訓練(昼間想定) ・職員研修会(5月25日) ・入所検討会議(5月25日) ・各種委員会 ・消防設備等点検		運 営	・利用者インフルエンザ予防接種 ・各種委員会 ・職員インフルエンザ予防接種 ・入所検討会議(11月26日) ・職員健康診断 ・職員研修会(11月26日)
6月	行 事	・光保育園交流会(6月9日) ・誕生日会	12月	行 事	・クリスマス会(12月23日ボランティアアユラス) ・餅つき(12月26日) ・法話(松枝住職) ・職員研修会(12月25日)
	運 営	・職員研修会(6月25日) ・民生委員奉仕活動 ・入所検討会議(6月25日) ・各種委員会 ・職員腰椎検査		運 営	・忘年会(12月1・8日) ・職員研修会 ・公用車洗車 ・大掃除(12月20、21日) ・各種委員会 ・正月の準備(門松作り 12月26、27日) ・職員腰椎検査 ・消防設備等点検 ・入所検討会議(12月25日)
7月	行 事	・七夕祭りの会(7月7日) ・誕生日会	1月	行 事	・新年を祝う会(書初め・福笑い・カルタ等)1月1、2日) ・誕生日会
	運 営	・職員研修会(7月25日) ・清掃作業(浴室・窓ガラス清掃 不ニビルサービス) ・園だより発行 ・各種委員会		運 営	・園だより発行 ・安全委員会 ・法話(松枝住職 11月10日) ・職員研修会(1月25日) ・各種委員会 ・入所検討会議(1月25日) ・水質検査
8月	行 事	・追弔法要(8月3日) ・誕生日会 ・スイカ割	2月	行 事	・節分の会(2月3日) ・誕生日会
	運 営	・職員研修会(8月24日) ・大掃除 ・わくわくワーク受け入れ(21日～25日の5日間) ・各種委員会 ・入所検討会議(8月24日)		運 営	・職員研修会(2月25日) ・各種委員会 ・入所検討会議
9月	行 事	・敬老会(9月16日) ・誕生日会(サングループ)	3月	行 事	・ひな祭りの会(3月3日) ・誕生日会
	運 営	・職員研修会(9月25日) ・各種委員会 ・入所検討会議 ・清掃作業(不ニビルサービスワックス)		運 営	・事業報告まとめ(各委員会データ、部門別) ・職員研修会(3月25日) ・清掃作業(不ニビルサービスワックス) ・各種委員会 ・入所検討会議(3月25日)

平成 29 年度 ケアハウス大仙 事業報告

事業計画実施状況

平成 29 年度は入居者数 28 名でスタートしましたが、病状の悪化や、認知症の進行等により退去者数は 7 名と多く、退居理由が高年齢によることは明らかなです。

現在も 90 歳以上の入居者の方が 7 名をおられますが、殆どの入居者様が有病者であり、体調の変化があった場合は直ぐに病院受診をして頂くなどの対応をしましたが、転倒により 3 名の方が入院される事故が発生したことはとても残念です。

生活状況についてご家族様と話し合う機会があまりないため、ご家族様と話し合う機会を設け連携が取れる体制を作りたいと思います。

誕生日会、行事等ではボランティアにお願いする事が多く、入居者様の要望に応える事が少なかったため、次年度はアンケート等を活用し入居者様一人一人が楽しみを持てる生活が出来るよう取り組みます。

又、春から夏にかけて害虫が発生し入居者の皆様や外部事業所の方々が不快な思いをされご迷惑をお掛けしました。

居住環境状況に気を配りながら、入居者の皆様に安心した生活を送っていただくよう心掛けます。

◇ケアハウス入居者情報

【表 1】

	入居者数	退居者数
平成 27 年度	5 名	3 名
平成 28 年度	5 名	5 名
平成 29 年度	6 名	6 名

◇稼働状況

【表 2】

	平均入居者数	稼働率 (%)
平成 27 年度	27.6	89.6
平成 28 年度	28.5	95.0
平成 29 年度	28.5	94.9

◇平均在居日数

【表 3】

	最長期間	平均期間
平成 29 年度	19 年 11 ヶ月	4 年 7 ヶ月

平成 30 年 3 月 31 現在

◇年齢構成

【表 4】

年齢	平成 27 年度			平成 28 年度			平成 29 年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
60~69 歳	0	0	0	1	0	1	1	0	1
70~79 歳	3	4	7	4	2	6	4	3	7
80~89 歳	7	12	19	6	10	16	5	7	12
90~99 歳	0	4	4	0	4	4	1	6	7
合計 (人)	10	20	28	11	16	27	11	16	27
最高年齢		92			93			94	

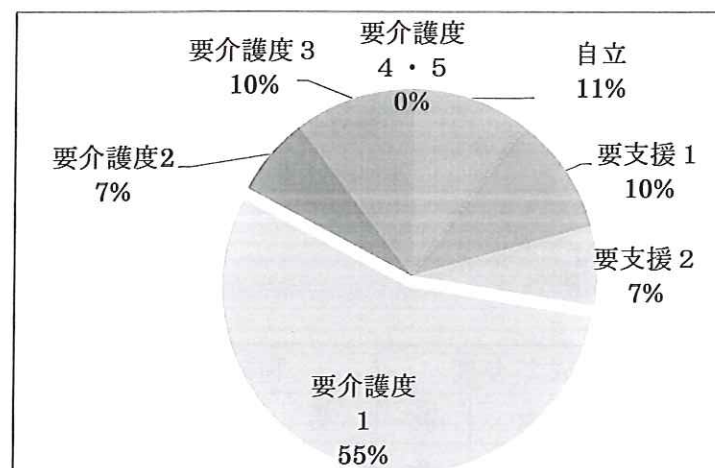
◇入所者介護度状況

【表 5】

平成 29 年度要介護度	男	女	合計
自立	1	2	3
要支援 1	1	2	3
要支援 2	0	2	2
要介護度 1	8	8	16
要介護度 2	1	1	2
要介護度 3	0	1	3
要介護度 4	0	0	0
要介護度 5	0	0	0
合計	11	16	27

平成 30 年 3 月 31 現在

<グラフ 1>



◇平均年齢

【表 6】

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
男性	82.6	80.9	80.1
女性	87.5	85.6	86.6
男女合計	86.1	84.1	84

◇入居者段階別区分内訳 収入のよる階層区分

【表 7】

	入居者数
15000000 円以下	19 名
1500001～1600000 円	0
1600001～1700000 円	1 名
1700001～1800000 円	0
1800001～1900000 円	1 名
1900001～2000000 円	0
2000001～2100000 円	1 名
2100001～2200000 円	1 名
2200001～2300000 円	2 名
2300001～2400000 円	0
2400001～2500000 円	0
2500001～2600000 円	1 名
2600001 円以上	1 名

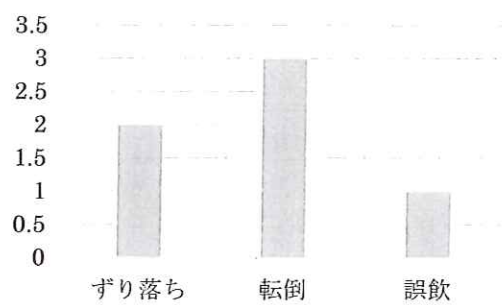
◇ヒヤリハット・事故報告

ヒヤリハット件数 6 件

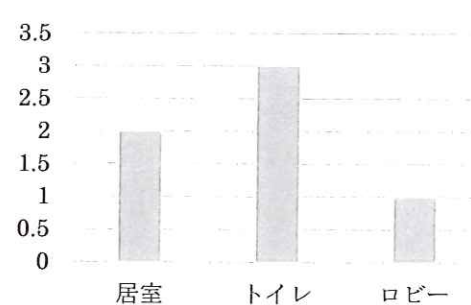
<グラフ 2>

<グラフ 3>

ヒヤリハットの種類

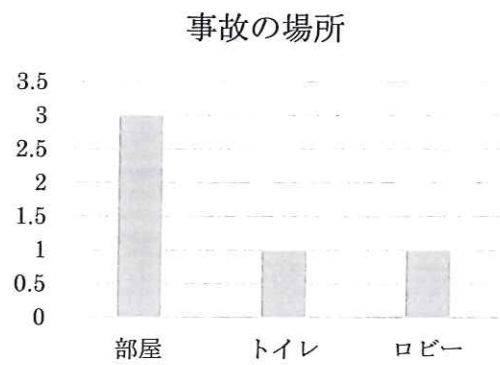


ヒヤリハットの場所

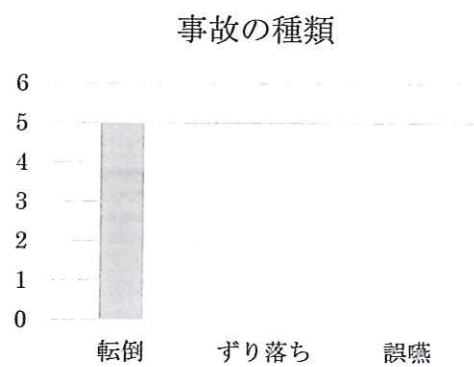


事故件数 5 件

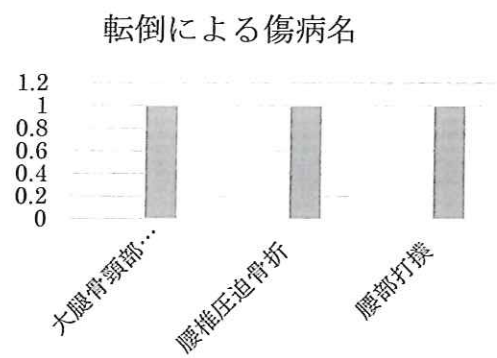
<グラフ 4>



<グラフ 5>



<グラフ 6>



平成29年度 ケアハウス大仙 年間行事報告書

- 1.入居者の皆様に安心した生活をおくっていただくよう支援して参ります。
- 2.家族との信頼関係・連携を大切にしていきます。
- 3.楽しみをもった生活ができるよう支援して参ります。

行	事	行	事	行	事
4月	運	・花見(4月6日8日)鏡山公園(西条)バンブー(竹原) ・誕生日会(4月30日) ・昼食会(お花見弁当) ・循環器浴槽メンテナンス ・職員研修会/事故防止委員会 ・ケアハウス便り発行	10月	運	・文化祭(10月29日) ・誕生日会 ・循環器浴槽メンテナンス ・職員研修会(インフルエンザ・ノウィルスについて) ・ケアハウス便り発行 ・職員研修会/事故防止委員会
	行	・屋内運動会 ・誕生日会(5月28日) ・職員研修会/感染症委員会 ・電気設備年次点検		行	・紅葉狩り(11月14日17日21日)仏通寺(三原市) 18名参加 ・誕生日会 ・入居者インフルエンザ予防接種 ・職員インフルエンザ予防接種 ・職員研修会/感染症委員会
5月	運	・誕生日会(6月25日) ・昼食会orおやつの会(ずんだもち) ・紫陽花祭り(6月20日25日27日、7月2日)三景園(三原)	11月	運	・クリスマス会(12月24日) ・誕生日会 ・餅つき(12月24日) ・消防用設備等点検 ・大掃除(業者によるフロア一清掃) ・正月の準備
	行	・消防用設備等点検 ・水質検査(27項目) ・受水槽清掃 ・職員研修会(食中毒について)	12月	行	・初詣(1月4日・5日)12名参加され福岡八幡神社(高屋東) ・書初め・カルタ(1月2日・3日) ・昼食会orおやつの会(巻きずし) ・収入申告 ・職員研修会/事故防止委員会 ・ケアハウス便り発行
6月	運	・七夕祭りの会(7月7日) ・昼食会orおやつの会(流しそうめん) ・誕生日会(7月30日) ・大掃除(業者によるフロア一清掃) ・職員研修会/事故防止委員会 ・ケアハウス便り発行	1月	運	・節分の会(2月3日) ・昼食会orおやつの会(2月15日 バレンタインの会) ・誕生日会 ・収入申告 ・浄化槽法定点検 ・職員研修会/感染症委員会
	行	・夏祭りの会(8月30日) ・誕生日会(8月20日) ・入居者健康診断(胸部検診) ・職員健康診断 ・職員研修会/感染症委員会	2月	行	・ひな祭りの会(3月5日) ・昼食会orおやつの会(ホットケーキ) ・誕生日会 ・収入申告 ・レジオネラ菌検査(浴槽) ・避難訓練(日中訓練)(3月27日) ・職員研修会
7月	運	・敬老会(9月16日) ・昼食会orおやつの会(おはぎと月見まんじゅう) ・誕生日会(9月30日) ・レジオネラ菌検査(浴槽) ・避難訓練(夜間訓練)(9月14日) ・職員研修会	3月	運	
	行				
8月	運				
	行				
9月	運				
	行				

職員研修会

月	研修テーマ	研修内容
4月	高齢者のむくみについて	むくみは何故おこるのか？高齢者は何故むくみか起こりやすいのか？について学習した。
5月	骨粗しょう症について	高齢者の骨密度の低下状態や、骨折などのリスクについて学習した。
6月	食中毒を防ぐ	食中毒の種類や感染予防策について学習した。
7月	業務の見直しについて	居住空間の環境調整など必要な業務を取り入れる為に11日の流れを見直した。
8月	熱中症と感染症について	年々増加している為水分の重要性や、その後の合併症について学習した。
9月	血圧について	高血圧や、血圧の病態生理について学んだ。 高血圧時の対応法についても学んだ。
10月	インフルエンザ・ノロウイルスについて	標準予防策を行う重要性和、飛沫・接触感染の予防策について学習した。
11月	成年後見制度	認知症の初期など判断能力の低下をきたした時に、法による対応がある。この知識を習得した。
12月	感染性結膜炎	安易に考えがちであるが、結膜炎は感染力が強く十分な手洗いなどが必要でありこれについて学ぶ。
1月	骨格の疾患について	変形性膝関節症や変形性肘関節症など高齢者の変形疾患について学んだ。
2月	認知症について	ケアハウスの入居や一般的に認知症の方が増加していることを踏まえた対応の仕方を学んだ。
3月	腎臓の働きについて	腎不全の方が2名おられる為症状や状態観察のポイント等について学習した。

委員会

月	委員会	会議内容
4月	事故防止委員会	・ヒヤリハットが2件起っている。この対策について協議し対策を検討する。
5月		
6月	感染症委員会	食中毒の感染経路についての学習をもとに周知徹底する
7月	事故防止委員会	・ヒヤリハットが6件、事故が1件起っている。この対策について協議し対策を検討する。
8月	感染症委員会	熱中症による感染症や、脱水症による感染症について学んだ。
9月		
10月	感染症委員会/事故防止	流行性感染症についての施設対応策について注意喚起を行う 骨折の事故が1件あり、この検証、対応策の検討を行う。
11月		
12月	感染症委員会	手指消毒の方法について再確認し、入居者の感染を予防する
1月	事故防止委員会	・ヒヤリハットが2件起っている。この対策について協議し対策を検討する。
2月		
3月		

平成 29 年度 入野光保育園 事業報告書

1.事業の概要

十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、健康の保持及び情緒の安定を図った。お陰で子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開できた。愛され大切にされる経験が、人への思いやり、強さ、自立心を育んでくれたと感じている。

大きな事故・問題もなく保育ができ、17名の卒園児を元気に送り出せた。

保育目標 「 強く・ 正しく・ 優しく 」
～たくましさと思いやりのある子どもに～

目指す子ども像を

- ・考える子どもに
- ・思いやりのある子どもに
- ・感動する子どもに
- ・思いが表現できる子どもに
- ・根気のある子どもに

として取り組んできた。

留意してきたことは、保育士自身が子どもの思いを共感的に汲み取り、思いやりのある態度で接し、子どもの自己表現を引き出せるようにしたこと。

常に保護者と連携を取り合いながら、目的達成に努めた。

- ・連絡帳 （毎日）
- ・個人懇談 （4月終り～5月始め）
- ・園だより （毎月）
- ・保育参観（保護者会） （年5回）
- ・各組の保育実践の振り返り（毎月）

給食は、家庭的な味付けを大事にしながら、乳幼児期という特性を踏まえ、その子どもたちの一生の食生活を形成するという役割を重視して、様々な工夫を凝らした。おやつも手作りを中心とした。

特別な保育事業を実施した。

- ・地域子育て支援拠点事業 （週3日程度実施）
- ・延長保育事業 （開所時間を7：15 ～ 19：00に延長）
- ・緊急一時預かり事業 （希望に応じて）

2.園児の状況 定員 80 名

	年度初め	途中入園	途中退園	年度末
0歳児	1	6	0	7
1・2歳児	24	9	2	31
3歳児	26	1	0	27
4・5歳児	37	1	2	36
計	88	17	4	101

3.職員の状況

園長	1名	パート保育士	5名
主任保育士	1名	事務員	1名
保育士	9名	(嘱託医)	(2名)
調理員・等	4名	パート保育者	2名

4.主要年間実施行事

- 4月 入園式 健康診断 歯科健診 保護者会 個人懇談
5月 親子遠足 尿・蛭虫卵検査
6月 衣替え 運動会 冷水摩擦始め プール開き 大仙園慰問
7月 七夕会 地震退避訓練 シャボン玉会 保護者会 年長児お泊まり 火災通報訓練
不審者対応訓練 消火器等総合点検
8月 夕涼み盆踊り大会
9月 プール納め お月見会 敬老会・大仙園慰問
10月 衣替え 健康診断 園外保育 歯科健診 祖父母の会・餅つき大会
11月 縄跳び大会 老人会との交流 尿・蛭虫卵検査 レストランごっこ
12月 ふれあい参観(第2土曜) お店屋さんごっこ(製作展)
1月 保護者会(衣装相談) マラソン大会
2月 節分豆まき 発表会予行練習 発表会(第4土曜)
消火器等点検 地震退避訓練 火災通報訓練 不審者対応訓練
3月 年長児お茶ごっこの集い 年長児お別れ遠足 大仙園慰問 園児お別れ会
卒園式

毎月	交通安全訓練	講師を招いて ○ 英会話教室(月4回) 年長・年中児
	火災退避訓練	○ お茶ごっこ(月2回) 年長児
	身体測定	○ 囲碁ゲーム(年6回) 年長児
	お誕生会	○ リズム運動遊び(年4回)

5.職員研修の状況

園内職員会議 毎月 1 回

園内人権保育学習 年 5 回

東広島市民間保育施設長会 年 6 回

こども未来部 保育課との連携を図り、保育運営等の充実に努めた。

市保育連盟との連携を図り、保育の質の向上に努めた。

市・保育連盟 総会・講演会

全体研修会

調理員研修

各部会に分かれての研修（健康部会）

自主研修

県・保育連盟 保育事業研修大会 （2 日間）

所長研修 （2 日間）

夏季保育研修 （2 日間）

市内・調理担当職員研修

県・特定給食研修会

市保育課・サポート事業研修

幼保・小接続研修

アレルギー講演会